

総領事館だより

マレーシア歴史探報（博士とぺにゃんの旅シリーズ）



こんにちは。ペナン総領事館マスコットキャラになりたいと考えているぺにゃんです。



これから数回に亘って、博士と一緒にマレーシアの歴史探報の旅に出たいと思います。

旅からペナン総領事館に帰る頃にはきっとマレーシア全土に私のことが知られているのではないのでしょうか？それでは、しばらくの間、お付き合いくださいにゃん。

博士：ぺにゃんよ、「ルックイーストポリシー」あるいは「東方政策」という言葉をしているかな？知らない？よし、日本の外務省のホームページから見てみよう。東方政策とは、マハティール現首相が当時の首相時代の1981年に提唱した構想で、日本及び韓国の成功と発展の秘訣が国民の労働倫理、学習・勤労意欲、道徳、経営能力等にあるとして、両国からそうした要素を学び、マレーシアの経済社会の発展と産業基盤の確立に寄与させようとするマレーシア政府の政策なのじゃ。今年の5月に再度首相として就任したマハティールさんは安倍総理と「東方政策」をヴァージョン・アップするための方策を今後議論していきたいと述べていますし、マハティール首相は「東方政策」を開始した当時、どのように国を發展させるかと考えたとき、日本の文化的側面に着目した、特に日本の勤労文化から学ぼうとした、改めて「東方政策」を強化していきたいとお話しされているのじゃ。

このように、現在の日本とマレーシアは非常に強い結びつきがあるのじゃが、歴史的にはどうなのか？いつからマレーシアと日本は交流があったか、ぺにゃんよ知っているか？

諸説あるのじゃが、マレー半島にある日本人の記録として最も古い方に、高岳親王があげられるのじゃ。あれ、ぺにゃん、高岳親王のこと知らない？

高岳親王（799年頃から865年頃）は平城天皇の第三皇子で、嵯峨天皇の皇太子なのじゃ。「薬子の変」の後に皇太子の座から降ろされて、空海の弟子になり、その後、インドへ渡航中にマレーシア（今のジョホール州）で亡くなったと言われているのじゃ。

ぺにゃん：博士、平安京遷都が794年だから、気が遠くなるくらいの歴史を感じるにゃ！

博士：ぺにゃんよ、ジョホールバルの日本人墓地には、高岳親王の墓地があって、墓地の碑にはこんな内容が書かれているのじゃよ。

高野山親王院善教建終焉ⁱ

高野山親王院の開基真如親王は平城天皇の第三皇子高丘親王なり嵯峨帝の儲たりしが後落飾して弘法大師の法資となる。大師入定の後支那に渡って佛道を修学すること三年更に佛教の玄底を盡さんとして咸通六年一月二十七日廣州を船出して印度に赴くの途次ジョホールに於て生年六十七を一期に遷化す。嗚呼法を求めてあらゆる難に堪へ遂に志を果すに至らず遠く異域に遷化されたる非運を偲び爰に恩師堯榮和上宿願に任せ供養の寶塔を建立するものなり

告 昭和四十五年庚戌年一月

日本高野山親王院小住

前左学頭 善教 敬白

博士：ぺにゃんよ、次に日本とマレーシアとの繋がり記録は一気に飛んで、15世紀頃に

なるんじゃよ。当時の琉球王国とマラッカとの交易が記録に残っているようじゃ。その後、1549年 イエズス会のフランシスコ・ザビエルがマラッカを出発し、日本に到着しているんじゃ。

ぺにゃん：学校の教科書でも出てくる有名な人ですね。このマラッカではフランシスコ・ザビエルの銅像がありますね。



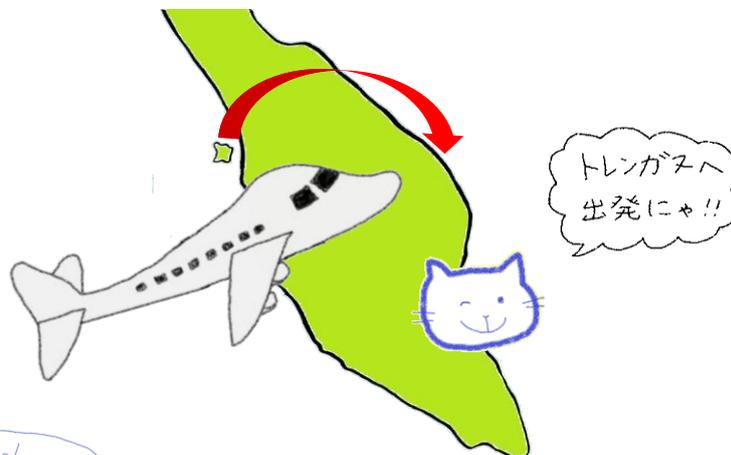
博士：さて、意外とかなり古くから日本との交流があったマレーシア、交流が更に活発になったのは明治の初期なんじゃ。この次期にマレー諸島やボルネオ島に日本人がたくさん入ってきているのじゃ。このあたりについては、昭和13年発刊の「南洋の50年：南洋乃日本人社発行」に詳しく載っているのじゃ。ぺにゃんよ、時間があつたらしっかり読むことじゃ。

ぺにゃん：この時期に日本とマレーシアとの交流が加速していくのじゃ！！

しかし、昭和13年発行って！！戦前にゃ！！これにはにゃんと、ぺにゃんもびっくりにゃ！！俄然、マレーシアと日本の歴史に興味湧いてきたにゃ！！



博士：ではでは次回から、ぺにゃんが生息するペナン総領事館が管轄している北部6州（トレンガヌ、クランタン、ペナン、ペラ、ケダ、ペルリス）を中心に見ていくことにしよう。



Selamat
Tengahari



目下、マレーシアの歴史を飼って勝手に研究している（略してマレ研）マスコットキャラクター。活動範囲はペナン総領事館が管轄している北部6州（ペナン、ペラ、ケダ、ペルリス、トレンガヌ、クランタン）が限界。



博士は、マレ研顧問でちょっと物知り。

ⁱ ジョホール日本人会 <http://www.japanclub.org.my/cemetery>